



新しい授業の展開

—『考える力』を育む指導の工夫—

思考力を育てる国語科の授業

東京女子体育大学准教授 たなか よういち 田中 洋一

1 はじめに

現行の中学校学習指導要領における国語科の目標には、思考力を養うことが明記されている。このことは、国語科が伝達の手段としての日本語を学ぶだけの教科ではないことを示している。つまり、日本語を使って思考する人を対象に、思考の道具である日本語の言語能力を高めることで、思考力を向上させる教科としても位置づけられているのである。このことについて、学習指導要領解説「第2章 目標及び内容」には次のように示されている。

「思考力や想像力」の育成に当たっては、言語と思考力、言語と想像力の関係においてこれらの能力をとらえることが必要となる。これらの能力が培われていく過程においては、常に言語の能力が介在している。また、これからの社会をよりよく生きる力として、課題を発見し、よりよく解決する力を養うには、論理的な思考力や想像力などを養い高めていくことが求められる。

この文章の趣旨を、「なぜ国語科で思考力、想像力を育成する必要があるのか」という問いに對する答えとして整理すると、概ね次のようになるであろう。

「これからの社会をよりよく生きる力として、課題を発見し、よりよく解決する力を養う」ことが必要であり、そのためには「論理的な思考力や想像力などを養い高めていくことが求められ」、「これらの能力が培われる過程においては、常に言語の能力が介在している」のだから、言語を身につける教科である国語科では、思考力・想像力の育成を目指すことが大切なのである。

このような国語科の性格は従来より変わりのないところであるが、ここへきて国語科を取り巻くさまざまな動きの中で、このことがあらためて強調されているのである。

2 国語教育の現状

平成十六年二月の文化審議会答申『これからの時代に求められる国語力について』は、「国語は学校教育のあらゆる教科や様々な学問の基礎」であるとし、「国語の教育を学校教育の中核に据えて、全教育課程を編成することが重要である」としている。

また平成十八年二月の中央教育審議会の『審議経過報告』では、「国語力はすべての教科の基本となるものであり、その充実を図ることが重要である」とし、国語力の育成をすべての教育活動を通じて重視することを求めている。

これらを通して見られる「国語力はすべての学習の基礎・基本である」という考えは、国語科で身につける日本語が、深い思考を支えるだけの価値ある言語であることを求めている。基幹教科としての役割りを担う国語科の姿が、はっきりと示されているのである。

今、このような考えが強調される背景には、現代の生徒が抱える学力の諸問題がある。それらは、例えば文部科学省による『平成十五年度小・中学校教育課程実施状況調査』の結果や、OECDによる『二〇〇三年PISA調査』の結果に現れている。

教育課程実施状況調査の結果では、説明的文章において展開や構成を正確にとらえる力や、根拠を明確にして自分の考えを述べる力が十分に身につけていないことが明らかにされている。

また、『二〇〇三年PISA調査』では、読解力の分野だけでなく各分野において、論述形式で答える設問や、自分の意見を述べる設問に答える力が不足していることが指摘されている。

このように、子どもたちの論理的な思考力を支える言語の力に課題があることが明らかになっているのである。この調査結果では、数学的リテラシー、科学的リテラシー、問題解決能力については、日本の子どもたちは世界のトップレベルにある。しかし、これらの力を支える言語

3 思考力の育成の場面

従来、国語科における思考力の育成は、主に説明的文章の読解の場や、意見文などの作文の場で行われると考えられてきた。確かに、緻密に計算された展開で書かれた説明的な文章は、筆者の論理的な思考の現れであり、生徒はそれに触れることで自らの思考のあり方を問い直すことができる。また、意見文などの作成の過程では、意見と根拠の関係や、問題提起→論証→例示→結論などの文章の構成を考えることで、筋道の通った論理展開を身につけることができる。

しかし、思考力の育成は、これらの学習においてのみ行われるものではない。文学的文章においても、文章を読みながら、展開に応じて先を見通す力、作品全体から主題をとらえる力なども思考を深める大事な要素である。また、使われている語の文脈の中での意味を理解することなども、思考力を育成する大切な活動であろう。これらの場合、感覚的な理解に加えて、叙述に即した論理的な読みを重ねることで、思考の深まりが期待できる。また、音声による表現の学習では、スピーチなどのあらかじめ原稿を用意する活動はもちろんのこと、話し合い活動においても、自分の発言の論理性を意識したり、意図に即した適切な言葉を選択するなどの過程で思考力は深まると考える。このように、さまざまな活動の中で生徒の思考力を培うことはできるのである。大切なことは、指導者が思考力の育成を意識し、授業の目標として設定することである。

今回、「新しい指導を考える会」から提案する三つの実践事例も、このような考えに基づいている。先生方の実践にご活用いただければ幸いである。